

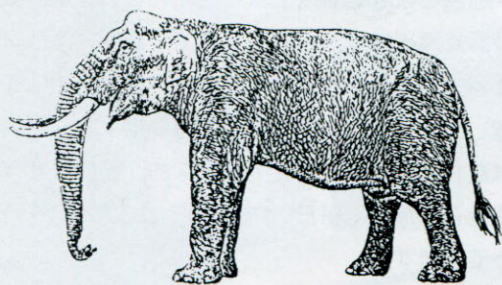
# 博物館だより

第14号

## アケボノ象の牙を発掘!!



▲ 発掘風景



▲ アケボノ象予想図

6月8日(土)に、小県郡東部町J  
R滋野駅近くの千曲川右岸の地層  
から、アケボノ象の切歯(牙)の化石が  
発掘されました。

発見者は小諸市在住の井出秀夫  
さんです。井出さんがこの付近で  
釣りをしていてみつけたという象  
の牙は、先端を上流に向けて灰色  
のシルト岩(泥岩)の中に埋って  
いました。

後に、牙の埋っていた地層は、  
第三紀鮮新世後期(約300~200万  
年前)に堆積した大杭層(おおぐい)  
であることや、昭和36年にはこの場所より  
上流の同じ地層(北佐久郡北御牧  
村)からアケボノ象の下あご臼歯  
の化石がみついていることなど  
から、アケボノ象の牙の化石であ  
ることがわかりました。

アケボノ象は、ステゴドンと呼  
ばれる古代の象の一種で、長野県  
からは他に、戸隠村・鬼無里村・  
飯山市から下あごや臼歯の化石がみつ  
つていますが、ほぼ完全な形をした  
牙の化石が発見されたのは東部町  
の標本が初めてです。

この牙の化石の一部は、分館茶臼山自然史館  
において夏休み期間中一般公開しています。



# ゆれる大地

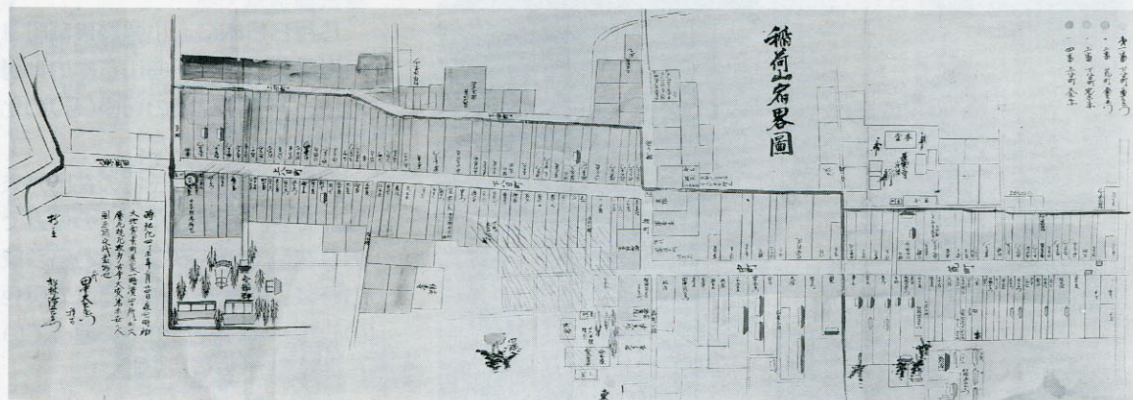
—第23回特別展より—

8月27日まで開催

## 善光寺地震

1847年（弘化4）3月24日の夜、長野市北部を震央とするマグニチュード7.4の大地震が発生し

ました。その時、善光寺では御開帳の最中だったため、泊っていた多くの参詣者をはじめとして、全体で7000人以上の死者が出ました。地震とともに建物の倒壊、火災、そして長野盆地の西部の山地ではいたるところで山崩れが発生しました。その中でも虚空蔵山（現在の長野市信更町）から崩れた土砂は犀川を2ヵ所でせき止め、約3週間後にそれが決壊し、善光寺平に大洪水をもたらしました。この地震は善光寺地震と名付けられ、その時の震度は震源に近い長野市でVIからVIIと推定されています。



稲荷山宿略図

▲稲荷山宿略図（松林 佶氏蔵）

善光寺地震では稲荷山宿も火災のためほとんどが焼失しています。この絵図はその様子が詳しく描かれている貴重な資料です。それによりますと、稲荷山宿は火元が4ヵ所あり、それも一度に出火したのではなく、第1番火は下八日町（西側）、第

2番火は荒町、第3番火は下八日町（東側）、第4番火は上八日町と、時間差をもって次々と焼けていきました。

善光寺地震では稲荷山宿の他にも善光寺町、飯山、新町などで火災が発生しています。

## 伊豆半島東方沖の群発地震をとらえる！

特別展示室で展示している地震計によって遠方の地震を数多くキャッチしています。特に、特別展初日には10数個の伊豆半島東方沖の群発地震、7月21日には長野県西部地震の余震をとらえました。また、近くで行われた発破もいくつか記録しましたが、発破というのは、気象庁地震観測所でも地震記録から除外していかねばならない深刻な問題の一つになっています。

さまざまな地震を記録しているこの地震計は、岡野式電磁地震計という名称で、京都大学理学部阿武山地震観測所からこの特別展のために寄贈していただいたもので、固有周期1秒、倍率は数1000倍という特性です。なお、記録はすす書きですから、毎日「すすつけとニえつけ」を行っています。



## 伊勢宮遺跡出土の木棺墓

(長野市篠ノ井塩崎)

### ●伊勢宮遺跡の調査

伊勢宮は千曲川左岸の自然堤防上に立地する遺跡で古くから地元の研究者にも注目されていました。昭和60年に発掘調査が行われ、弥生時代中期初めの木棺墓が30基ほど発見されたことで注目を集めました。

### ●再葬墓と木棺墓

弥生時代初期の東日本には再葬墓（遺体を埋葬した後、骨化した骨を集めて壺に入れ、再び埋葬したもの）という縄文時代の伝統的な墓制が一般的でした。しかしながら、中部高地善光寺平において、弥生時代中期初めに木棺墓という新来の西日本的な墓制が既に行われていたことが実証されたのです。

### ●弥生文化の伝播<sup>でんぱ</sup>

朝鮮半島南部より北部九州へ到来した新しい技術や文化と在来の伝統的なものとが複合して、弥生文化は成立しました。弥生文化が本州北端の津軽地方まで伝播するのに、従来は、5、600年位かかると考えられていました。しかし、近年の研究によると北部九州より津軽地方までせいぜい50～60年の短期間で西日本にさほどおくれることなく、

農耕技術や文化が受容され、生活様式が変容したことがわかってきました。西日本から東北北部への伝播のルートとして日本海側経由が考えられます。この点から、信濃へのルートを見ると、伊那谷北上ルートなどのほかに日本海側からの南下ルートも当然今後考慮されなくてはならないでしょう。

### ●善光寺平への伝播

伊勢宮の木棺墓は我々に色々なことを語ってくれます。信濃の地で弥生時代中期初めに木棺が使われていたということは単に弥生的な文物の波及だけでなく、早い段階から弥生文化を受容し、弥生社会が成立していたのではないかと考えられます。事実、最近の調査で、弥生時代初期の水田跡が確認されており、弥生文化が急速に受容され、定着したことが明らかになってきています。縄文人が新文化を摂取して、弥生人となったことは、明治時代の文明開化の急激な変化の状況に対比することができると思います。

### ●5号木棺墓

今回展示した5号木棺墓には3体が埋葬され、骨の重なり具合や位置などから、同時に納められたと考えられます。この木棺は、組合せ式箱形木棺<sup>こぐちいた</sup>といい、両端の小口板を墓穴の底面に深く立てて組合せたと考えられます。木棺の大きさは幅約50cm、長さ約150cmほどです。遺体は仰向けで下肢を曲げる姿勢で納められたようです。また遺体には赤色顔料(ベンガラ)が塗布されていました。



▲木棺の中に納められた遺体（復元）



# 博物館行事のご案内

## ◆第24回特別展「信濃の馬」(仮題)

10月8日～11月26日

## ◆自然史館 第4回特別展「いろいろな岩石」

11月23日まで 於・自然史館教室

## ◆開館8周年記念行事

講演会「信州のおいたち—化石を中心に—」 9月23日

講師 田中邦雄館長

山千寺仏像展示 9月23日～11月3日

於・常設展示室

## ◆体験教室

おもちゃをつくろう 9月3日

講師 吉沢嘉寿先生

石器をつくろう 10月5日

講師 森山公一先生

## ◆天体観望会

9月1日 於・長野女子高校校庭

9月29日 於・芋井小学校校庭

10月27日 於・博物館前庭

望遠鏡を使って星の観測をします

## ◆プラネタリウムコンサート

10月21日 於・プラネタリウム

## ◆歴史講座 「郷土の歴史—中世—」

10月14日・28日・11月1日・25日・12月

9日の計5回

講師 和田博専門員

## ◆民俗教室 「芋井の石造文化財をたずねて」

9月2日 講師 麻場長男先生

## プラネタリウム

## 夏の新番組

# 星が流れる —流れ星のひみつ— 9月10日まで

8月12日、ゆき子は山へキャンプに行きました。キャンプファイヤーなど楽しんだ後、皆は眠りにつき静けさがやってきました。ところが、ゆき子はなぜか眠れません。すると、外で何やら音がします。それは、さとるおじさんがラムカを作っていた音でした。ラムカとは、流星観測の道具の1つなのです。ゆき子は、今晚がペルセウス座流星群の極大であることに気付いたのでした。そして、ゆき子とさとるおじさんは勇んで夏の星座のもとへとかけ出していったのでした。

さあ、天の川を舞台とした夏の星座・流れ星のお話が始まります。



### ○投影日

7月29日～8月20日は月曜日を除く毎日

8月22日～9月10日は土曜・日曜のみ

### ○投影開始時刻

10:00 11:30 13:30 15:00

(平日は、10:00の投影がありません)

博物館だより No.14 1989.8.20

編集・発行 長野市立博物館

〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎ (0262) 84-9011